

南あわじ市 平成 19 年度 事務事業評価シート  新規  継続  
( 団体用 )

## I 基本事項

整理番号 1279

事業名	ボーイスカウト・ガールスカウト補助金	予算科目	会計 一般会計・1
担当部課名	教育部 生涯学習文化振興課		款 教育費・10款
電話	0799 - 37 - 3020		項 社会教育費・5項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務 <input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)	目 社会教育総務費・1目
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	人づくり 知恵あふれ 郷土愛が満ちるまちづくり	
	まちづくりの目標	一人ひとりが明日を拓くリーダー【教育】	
	施策目標	子ども達や市民が、南あわじ市の未来を切り拓くための、多様な能力を身につける機会を提供する	

## II Plan&amp;Do (計画・事業内容、団体内容、投入資源)

事務概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人を、構成員内訳)		
		ボーイスカウト三原第1団、ボーイスカウト三原第2団、ボーイスカウト三原第3団、ボーイスカウト三原第4団、ガールスカウト兵庫第52団、ガールスカウト兵庫県第95団	構成人数(人)	150
		活動目的(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入)		
		市内において少子化が進行する中で、異年齢の子供同士の交流や自然体験等を通じて、社会性を育み、スカウトの精神である奉仕や道徳教育を行うことを目的とする。		
	実施内容	(主な事業、活動内容等)		
		ボーイスカウト活動では主に野外活動を実施し、自然の中で生活するための技術習得をするためのキャンプ体験や山登り・オリエンテーリングなどを行う。また、ガールスカウトは音楽教室やクラフト作りなどの活動を行う		
	団体の概要	(どのような団体か、活動目的、活動内容など)		
	学校教育や家庭教育の中では実施できないような、体験型の社会教育を実施するために、専門技術を持った指導者を中心に、世界的な規模でスカウト活動はそれぞれの国や地域に即した形で事業が実施されている。 島内の他自治体管内では、市町合併後団の統合が進み、洲本市1団淡路市1団に統合された。南あわじ市内においても、旧緑町の三原第2団及び福良の三原第3団が団員減少により休止中であり、実質的に活動を行うのはボーイスカウト2団体とガールスカウト2団体である。			
	事務局の所在 (直接事務執行部署)	<input checked="" type="checkbox"/> 補助団体 <input type="checkbox"/> 市役所	<input type="checkbox"/> 市単位 ( ) <input type="checkbox"/> 旧町単位 ( ) <input type="checkbox"/> 旧村単位 ( )	
補助金算出根拠	南あわじ市補助金交付規則			
補助交付期間	<input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度	<input checked="" type="checkbox"/> 設定なし		
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯)			
	<input checked="" type="checkbox"/> 旧緑町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧西淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧三原町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から			
	旧町に於いては補助金の額にばらつきがあったものの、スカウト活動への補助を実施していた。 合併後は人数の多少に関係なく一律に団体への補助金交付を行うこととした。			

		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
資源配分 インパクト	直接事務費 (千円)	350	280	300	229
	ボーイスカウト・ガールスカウト活動補助金	350	280	300	229
	財源 (千円)				
	国				
	県				
	起債				
	その他				
	一般財源[A]	350	280	300	229
	人件費(正規職員)[B] (千円)	0	0	0	0
	平均人件費(1日当り)	30.7	29.9	30.1	30.1
	事業量1(事業に要した日数)				
	事業量2(事業に要した人数)				
	年間経費([A]+[B])	350	280	300	229
「構成人数」一人当り経費 (千円)	2.3	1.9	2.0	1.5	
受益者人数( 150 )一人当り経費(千円)	2.3	1.9	2.0	1.5	
経費に関する 補足説明	対象団体としてはボーイ4団体、ガール2団体だが、活動休止中の2団体を除く4団体に対して補助金を交付している。				

### Ⅲ Check (事業の自己評価・一次評価)

費用対効果	(費用対効果の分析、問題点・課題などを記入。) 少子化が進む中で団員の増加を望むことは現実的ではないが、少子化の時代こそ団員の数だけで活動に対する評価を行うのではなく、社会的な有効性を重要視して活動に対する補助を継続させることは必要である。 最小のコストでこれまでと同様の活動が続けられていることは、ボランティア指導者の負担に負うところが大きい、保護者の経済的な負担が大きくなってきたことが、一層の団員減に繋がっているのではないだろうか。	自己評価 (5点評価)
		4
必要性	公共性の高低 <input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低 (公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) これまでの活動の成果や歴史的な変革を見ても、必要性は高いと思う。今後は団の統合も視野に入れた中で、補助の継続については取り組んでいかなければならない。	自己評価 (5点評価)
		4
総合評価	自己評価をふまえた現状分析 補助金の拡充や事業への市職員の参画等は現在の社会情勢の中では不可能であると思われるが、スカウト活動に対する広報や積極的なPR活動など補助金以外でも協力できることがあるように思われるので、活動の芽を摘むような施策を続けるのではなく、例えば地区公民館や児童館などが事務局を行うことで指導者の負担や事務経費の負担が低減されるので、市としても側面から活動をバックアップすべきではないか。このままでは近年中にスカウト活動は終息する可能性が大きい。	評価グラフ
		<p>費用対効果 4 必要性 4</p>

## IV Action&amp;Plan (改善・改革の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 交付方法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 交付方法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減
	<p>1 団体当たり年額 5 万円では活動に支障をきたすと思うが、団体数が減った分を割り振ることが出来れば、多少でも活動に対する助成になるので、是非とも現状維持とする。</p>	<p>同左</p>
(現状維持以外の改善方法)		
改善によって期待される効果		
(現状維持の場合も記入)	<p><b>仮に</b>補助金、交付金を廃止した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面)</p> <p>市内の児童にとって異年齢交流や自然体験・社会体験ができる数少ない機会が無くなることにもなりかねないので、社会的に及ぼす負の影響は大きい。また、自主活動と言えどもスカウト活動の基本には奉仕精神があり、子どもたちが様々なボランティア活動を行うことで、地域社会に対するボランティア精神の波及的な広報効果は多大である。</p>	